

平成 26 年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■蚕桑地区：6月30日（月）午後7時30分～9時 参加者数 53名

Q. コミュニティセンター化について、地区でつくる計画は、ソフト面だけの計画でいいのか、ハード面も出てくるのではないかと、町の対応はどうか。

A. 生涯学習、地域づくりについて継続していただくことを前提に、さらには地域の課題に対応する事業展開を期待している。第一義的にはソフト面を中心に計画していただきたい。分館整備等についての補助制度は継続する方向で調整し、施設の改修等のハード面の助成についても継続して対応していきたいと考えている。

Q. 地域で計画した事項については町でも優先的に取り組んでいただきたい。

A. 地区の課題はたくさんある。地域づくりの中において、ソフト、ハード両面で、蚕桑地区としての優先順位をつけていただきたい。

Q. 災害があった場合、高玉地域から地区公民館に来るまでの道が整備されていない。米沢白鷹間 30 分構想の高規格道路整備の話があるが、白鷹町まで整備されるのを待っているだけでなく、そういう計画をうまく利用して白鷹町のほうからも整備できないものか検討していただきたい。

A. 荒砥橋架け替えについてようやく動き出した。鮎貝駅前から長井の泉のほうへの道路整備の要望を置賜総合開発協議会にようやく認められた。長井市では西側の幹線道路整備促進協議会が設置され、連携しながら進めていく環境が整った。実現に向けて取り組んでいきたいが、道路整備については長期間での構想になるのでご理解いただきたい。

Q. 中学校統合の準備状況については説明があったが、西中の跡地利用については何も話なかったことが残念。新たな学校も大事だが、残る学校の利用も重要である。町としては跡地をどのように利用していきたいのか、具体的に検討していただきたい。

A. 西中学校跡地については、校舎の耐震化等の問題もある。今後、公共施設の在り方を検討していく中で対応していく。

Q. 災害があった場合、指定避難場所である地区公民館と東高玉の間は旧道（西遅沢中里線）を利用しているが、砂利道・でこぼこ道で、東高玉からの避難は大変なので、整備していただきたい。

A. 砂利道であり、踏切もあるのでむずかしい部分はあるが、整備は必要だと考えている。現場踏査をしながら前向きに検討していく。

Q. 踏切付近は簡易舗装されている。舗装までしなくても、砂利を敷く、グレーダーをかける等、ならずだけでもだいぶよくなる。車が通れるように検討いただきたい。

<佐藤区長> 西高玉の5・6町内の指定避難場所も地区公民館になっていて、東側を通過しなければならぬので、西高玉地区からもお願いしたい。

Q. 町内会費・公民館運営費以外の税外負担をいっさいしない方がいる。せめて衛生組合費だけでも、と協力を求めても、負担する理由がないと言われる。町に話をしても、どう対応すればいいのか明確な回答がなく、税外負担はあくまでも任意なので協力してもらえないのであればしょうがないと言われるだけ。今後、負担がたいへんになる年金暮らしの高齢者が増える中で、町として税外負担をどう考えているのか、衛生組合そのものが必要かどうかも含めて検討いただきたい。

A. 様々な負担が重荷になってきていることは認識している。地域の中で話しあっていただきご理解ご協力をお願いするしかない。

Q. 町内会を退会したいと申し出た方がいる。町内としては引きとめたにもかかわらず、役場に行って申し出たら「わかりました」と受理されたとのことだった。そういったことで役場に出向いた方がいれば、せめて、「町内の方とよく相談して決めてください」くらいは言ってほしい。

Q. 税外負担については、高齢者世帯が多くなる中で、ほかと同じに負担を求めるといのはおかしいのではないか。

A. すべて同じく負担を求めなければならないわけではないが、町のほうから一概には線引きできないので、地域の中で相談して実情にあった対応をしていただきたい。

Q. なんでもかんでも地域で決めてくださいと区長や町内長に責任を押しつけるのは納得いかない。モデルケースを考える等、町としての考えを示してもいいのではないか。

<佐藤区長> 町への要望として検討いただきたい。

Q. 少子化の中で、消防団に入団する人が少なくなっている。町として、職員が率先して入団するような姿勢を考えているかどうか。

A. 消防団への勧誘等、基本的には地域の中でお願いしているが、消防力を確保するため、国でも、待遇の改善、国家公務員・地方公務員も含めて消防団活動を進めていく方針。年齢等もあるので全員とはいかないが、町としてもできる限り地域で活動していく職員を増やしていく。

Q. 昨年の豪雨災害の被害が大きかった林道について、大鮎貝沢、小鮎貝沢、両方で崩落があり道がなくなった。復旧は大変だと聞いてはいるが、大変だと言うだけではなく、どちらかだけでも、計画だけでもしていただきたい。

A. 昨年7月の豪雨では町内ほとんどの林道が相当な被害を受けた。公共災害の認定を受けた箇所から発注し10月末までなんとか整備したい考えで、国の査定を受けられなかった箇所については町単独での発注、直営での作業に入る。大鮎貝沢、小鮎貝沢についても大変大きな被害で、県に堰堤工事を治山事業として要望している。現道復旧が難しい場合は、その工事の作業道路を林道として活用していくことも考えている。時期については予算の関係もありはっきりとは申し上げられないが、町としても要望をしているのでご理解いただきたい。

Q. 葉山の登山道は、西高玉の登山口から雨量計までは通行可能。その先に2カ所の崩落がある。先日、地区と山岳会で草刈整備をしたが、崩落箇所が危険なため、山岳会とも協議をしてルートを変えたいと考えているので、町からもいい案をいただきたい。

A. お話のように、昨年7月の豪雨で登山道も崩落している箇所が多くあり、葉山の登山道についてルートを変える検討が必要だとの話を受けて町としてもその方向で調整させていただきたいと考えている。地域の方、山岳会の方と相談し安全なルートを確保すべく、さっそく協議させていただきたい。

Q. 後継者が不足している中で、町の基幹産業として、若者が農業をやりたくなるような施策を打ち出してもらいたい。国の施策を示すだけでなく、町としての施策をしっかりと提示していくべき。どのような考えがあるか。

A. 国の施策が大きく変わり、特に、5年後には減反政策が廃止となる予定で、稲作農家には厳しい状況になる。町としては、JAや生産団体と相談しながら「戦略作物」として15品目を定め、支援できるように進めている。新規就農者も少しずつ増えているが、農地の提供や初期の設備投資をどれだけ支援できるか、事業費の大きなものについては国や県と連携をして事業費へのかさ上げ等を検討している。町単独の支援としては、町外からの新規就農者に対して3年間家賃を助成している。新規就農者が独立できるまで指導してくれる方を募りながら関係者と話を進めている。今年あたり、その道筋をつけて来年度あたりに予算化できればと考えているのでアドバイス等をいただきたい。

<佐藤区長> 西高玉においては、町の支援で4町歩の遊休農地の解消に向けてまい進している後継者がいる。将来は畜産経営をやりたいとの思いもあるようで、地域でも最大限の支援をしていくので、町としても支援をお願いしたい。

Q. 4月に陽光学園付近で猟友会によりサギの有害駆除をしてもらってから2カ月が経過したが、その後まったく対応がなく、サギが増えているようだ。町として対策をしてもらいたい。

A. 陽光学園付近にアオサギの巣がある。4月の駆除に立ち会い、どのような方法が効果的か県とも協議しているが、いまのところこれといった案はなく、継続して検討していく。

Q. 町内の除雪を2つの業者が行っており、南側と北側で除雪の時間帯がちがうので、町内の中は1つの業者で除雪してもらえないものか。

A. 除雪については、効率がいいように、おおよそ路線ごとに業者に委託をしており、通学・出勤の時間に間に合うよう7時頃までには終わるようにとお願いしているが、距離が長いところは遅くなる。できる限り早く除雪を終えるようお願いし、効率良くまわれるように検討していく。

Q. 保育園は昨年統合され、来年は中学校が統合される。まもなく小学校も統合になるのではないかという状況。地域には保育園も学校もなくなり、あるのは郵便局くらい。地域でも考えるべきところではあるが、町としては蚕桑地区に何か公共施設をとという考えはあるか。

A. 小学校は地域において歴史・文化がある。複式学級となるまでは統合せずに現状で小学校を維持していきたい。複式学級となった場合には、その心配もでてくるかと思うが、できるだけそうならないように、少子化対策については皆さんの力をお借りしたい。

Q. 中学生までの医療費を無料化する等、子育てを町で支援している部分はあるが、今後、例えば、義務教育が終わるまでの学費・経費を町で全額負担する等の大胆な考えはないものか。

A. 他の市町村での施策も当町とほとんど同じ。医療費については高校生まで無料にしているところはあるが、町で負担するということは税金を使わせていただくことになる。白鷹町では医療費の無料化は中学生までと判断している。子育てにかかる経費をすべて公費で負担するなどすれば、国の制度が崩壊する。こんなことはどうだろうか、とのアイデアをいただければ、その都度、検討させていただき、できることには実現に向けて努力していく。

Q. 役場庁舎の建設に 30 億という経費がかかるようだが、西中の校舎を耐震化して利用すれば、新たな用地買収などする必要もないのではないか。

A. 役場庁舎は建築からすでに 50 年が経過している。耐用年数があと数年のところの数億を投資するよりは、防災センター機能を持たせ、消防分署、中央公民館、図書館とリンクして利用できる庁舎を整備したい。西中の校舎をこれからも使っていけるようにするには相当な経費がかかる。跡地利用について現時点で具体的な利用は申し上げられないが、有効に活かす方法を考えたい。